

No	該当箇所	意見要旨	意見に対する考え方
1	全体	<p>村の強みは「当たり前にある豊かな自然と営み」であり、新しいハード整備や商業開発だけに依存するのではなく、昔から培われてきた循環型の暮らしを現代に合う形で再評価・発信してほしい。これにより、子育て世帯だけでなく、シニア世代や「自然な暮らしを体験させたい」親世代など多様な世代を呼び込む可能性が広がる。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。それぞれ個別に回答させていただきます。</p>
2		<p>ボランティア頼みではなく、少額でも報酬を得られる仕組みづくりを通して地域内に経済的循環を生み、高齢化や担い手不足に伴う負担を減らすことが重要。</p>	
3		<p>外部資本の大規模リゾート開発が急激に進むと、かえって村の良さが損なわれるリスクがある。村のらしさを保ちつつ、新しい取組や新しい世代の受入れを柔軟に進めてほしい。</p>	
4	1- (1) 総合的な子育て環境と魅力的な教育環境	<p>村全体を「森の幼稚園」や「自然学校」のように位置づけ、五感を使って自然と触れ合う教育・子育て環境を充実させてほしい。それらをもっとアピールしてほしい。</p>	<p>施策 1- (1) 具体的な取組「地域教材を取り入れた保育活動の推進」のとおり、おひさま保育園では豊かな自然環境や地域資源を積極的に取り入れた「やまほいく」を実施しています。今後は内容の検討やPR等の拡充を行っていきます。</p>
5		<p>高齢者が講師やサポーターとして参加するなど、世代間交流の機会を増やすことで村全体に活気が生まれる。都市部から親子連れを呼び込み、農的体験や自然体験プログラムを提供すれば、関係人口者移住者の増加にもつながる。</p>	<p>施策 1- (1) 具体的な取組「地域全体で支える子育て環境の充実」の中で、現在、地域連携コーディネーターによる保育園、小・中学校及び農林高校と、老人クラブ等との多世代交流を実施しています。今後は事業内容を検討し拡充していきます。</p>

No	該当箇所	意見要旨	意見に対する考え方
6		子育て世代の人口を増やしたいと考えるなら、そればかりを追い求めている方たちに届くような発信方法を再検討する必要がある。	施策 1- (3) の具体的な取組「魅力ある情報発信の強化」および「住民への的確な情報発信」の中で、様々な手段を用いて対象世代への情報発信を推進していきます。
7	1- (3) 若い世代が安心して暮らせる住環境	村営住宅を子育て世代だけでなく、多世代が利用できるような仕組みに広げてほしい。	施策 1- (3) の具体的な取組「村営住宅等の利活用」の中で、現在、若者の定住を目的に子育て世帯に対して村営住宅を賃貸借しています。しかし、生活スタイルの多様化など、村外に住居を求める若者や子育て世帯も多く、村内における住居の確保が大きな課題となっています。第 3 期総合戦略においては、少子化対策の観点から、若い世代に焦点を当てた住環境の整備を中心に取り組んでいきます。
8		外部の人が“気兼ねなく泊まれる”低料金の宿泊施設を増やし、農業体験や自然体験に参加しやすくする。大規模リゾート化や過度な商業開発よりも、小規模・地域密着型の宿泊拠点を増やし、管理運営に関わる新たな雇用を生む。	2- (2) No.14 で回答します。

No	該当箇所	意見要旨	意見に対する考え方
9	1- (4) 若い世代の負担を軽減する	子育て世代の負担を減らすためにも、地域活動や農業体験などが「ボランティア」ではなく小さな収入源として確立する仕組みづくりが有効。世代に関わらず、少額でも報酬が得られるプロジェクトを増やすことで、多世代が積極的に参加しやすくなり、担い手不足の解消にも寄与する。	<p>施策 1- (4) の具体的な取組「持続可能な集落活動の支援」において集落支援員制度を積極的に活用し、地域活動の担い手不足の解消を図ることとしています。なお、集落支援員の活動に伴う報酬は、村から支払うこととなります。</p> <p>農業体験や自然体験の対応については施策 2- (2) No.14 で回答します。</p>
10	2- (1) 安心して暮らせる医療・福祉環境	高齢者や要介護者が施設に入るだけでなく、できる限り地域や自然と関わりながら暮らせる環境を整えてほしい。	<p>施策 2- (1) の具体的な取組「地域包括ケアシステムの推進」のとおり、地域包括ケアシステムとは、「医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した生活を続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制」とされています。村では、この地域包括ケアシステムの推進を図りながら、ご意見のとおり、できる限り地域で暮らせるように取り組んでいきます。</p>

No	該当箇所	意見要旨	意見に対する考え方
1 1		<p>コミュニティスペース、地域密着宿泊、シェアハウスや宿泊拠点など、新たなサービスモデルで、子ども・高齢者型世代が共に過ごせる場を増やす。要介護リスクの軽減や医療費の抑制に繋げる。</p>	<p>世代間交流の重要性については、いただいたご意見のとおりと考えており、介護予防、健康増進の観点からも有効な取り組みと考えております。</p> <p>村では、第3期総合戦略の上位計画である第7次総合振興計画において「高齢者の生きがいづくり」「共に支え合う村づくり」の中で、ボランティア団体やサークル活動など地域住民活動への支援に触れながら、交流による介護予防・健康増進施策を推進していきます。</p> <p>なお、交流の場としての施設整備については、他施策の取組みや整備費用についても考慮する必要があるため、基本的には既存の施設を活用しながら、取組を進めていきます。</p>
1 2	2- (2) 雇用を支える多様な産業の持続的な発展	<p>体験施設や宿泊拠点などを仕事として回せる仕組みを構築し、外部の人が気兼ねなく泊まれる低料金の宿泊施設を確保し、農業体験や自然体験に参加しやすくする。大規模リゾート化や過度な商業開発よりも、小規模・地域密着型の宿泊拠点を増やし、管理運営にかかわる新たな雇用を生む。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、地域資源を活用した地域に人を呼び込むための仕組みづくりについて検討していきます。</p>
1 3		<p>外国資本による土地買い占めや高層ビル建設といった事例が周辺地域で発生しているが、村独自の良さを守るため、地域主体の開発を重視してほしい。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>

No	該当箇所	意見要旨	意見に対する考え方
1 4		ボランティアベースではなく、農業体験や自然体験をビジネスとして展開することで、村内にお金が循環する。	現在、市民農園事業をはじめ、木島平村観光振興局においても、体験商品として造成し提供しています。 ご意見のとおり、村の資源を活用した取組みは重要と捉えていますので、今後ともご意見をいただきながら進めていきます。
1 5	2- (3) 住みたくなる・ 住み続けたい安 全・安心な生活	空き家のシェアハウス・民泊、既存施設のコミュニティスペース化（郷の家や農村交流館の活用）など、柔軟な住まい方や集いの場となるよう後押ししてほしい。	今後、空き家活用の枠組みの中で検討していきます。
1 6	環境	外部から訪れた人が気軽に滞在・体験し、地域の方と交流できる場を充実させることで、「いつか移住したい」「セカンドホームを構えたい」という層を増やす。	施策 2- (3) の具体的な取組「体験住宅を活用した村の魅力発信」のとおり、移住検討者が低料金で利用できる施設として、田舎暮らし体験住宅が2棟あり、コンスタントに、また幅広い年齢層に利用いただいています。引き続き、この体験住宅による移住体験を進めるとともに地域住民との交流の機会をつくっていきたいと考えます。
1 7	2- (4) 持続可能な地区 づくり	団塊世代の高齢化が本格化する前に、シニア世代や地域住民同士が気軽に集い、機能低下予防・社会参加を進められる拠点を整備してほしい。	施策 2- (1) No.11 で回答します。
1 8		若い世代にも負担が集中しないよう、集落支援員やコミュニティ助成事業などを活用して協働の村づくりを促進していく。	ご意見のとおり、施策 2- (4) の中で、集落支援員制度等の活用を進めます。

No	該当箇所	意見要旨	意見に対する考え方
19	各KPI 各項目の具体的な取り組み内容	各項目にKPIが設定されているが、どのレベルまで各項目のKPIが達成されれば基本目標(KGI)が実現できるのか、具体的な全体像が示されていないため、道筋が見えにくい。 例えば、各項目のKPI達成率が50%の場合、どの程度基本目標に近づくのか、あるいは80%達成すれば村の暮らしにどのような変化が現れるのか、といった指標の進捗状況と目標達成の関係性について、具体的な説明があると計画の理解が深まると考える。	第3期総合戦略においては、基本目標毎にKGI(重要目標達成指標)を設定し、KGIを達成するために重要な指標としてKPI(重要業績評価指標)を設定しています。設定された単一のKPI達成率に応じてKGIが変動するものではなく、複数のKPI達成率の上昇が相乗効果を生み、結果としてKGI達成に近づくものと期待しています。
20		これまでの取組の進捗状況や、実施できたこと・できなかったこと、その障害や課題についても開示いただくと、村民一人一人が計画をより身近に感じ、理解と共感が得られるのではないのでしょうか。	1 基本的な考え方(4) 推進・検証体制にあるとおり、PDCA サイクル ¹ のもとで指標の達成状況などを客観的に検証し、必要に応じて総合戦略の見直しを行い、より効果的、効率的に事業を推進していきます。 なお、「木島平村総合戦略推進委員会」において検証と見直しを行い、結果を公表することとしています。

¹ PDCA サイクル：Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点を取り込み、事業の継続的な改善を推進すること。

No	該当箇所	意見要旨	意見に対する考え方
2 1	全体	<p>この計画はどのような位置づけとして、どのような取り組み方で作り上げられたのでしょうか。</p> <p>課題解決に向け、もう一歩進んだ戦略（具体的な施策）が必要ではないかと感じる。</p>	<p>1 基本的な考え方（2）位置づけのとおり、目標人口の達成に向け、人口減少に特化したものとして、今後4年間の基本的な計画を定めるものです。</p> <p>第7次総合振興計画や、国や県の総合戦略を勘案しながら、産業・教育・金融・行政・住民で構成された総合戦略推進委員会において諮り作成しています。</p> <p>具体的な施策については、取組に基づき、各年度の事業計画および事業執行のなかで実施していきます。</p>